

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 令和3年10月20日

(2) 調査対象期間 令和3年7月～9月期実績および令和3年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種	企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業		30社	23社	76.6%
建設業		30社	24社	80.0%
卸売業		30社	23社	76.6%
小売業		35社	23社	65.7%
サービス業		25社	17社	68.0%
合計		150社	110社	73.3%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

2) 建設業

完成工事高

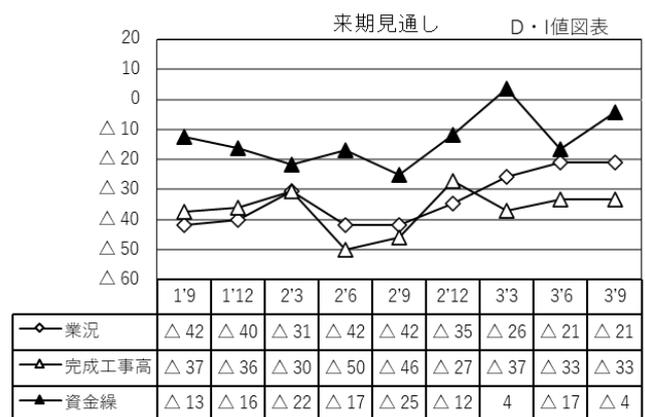
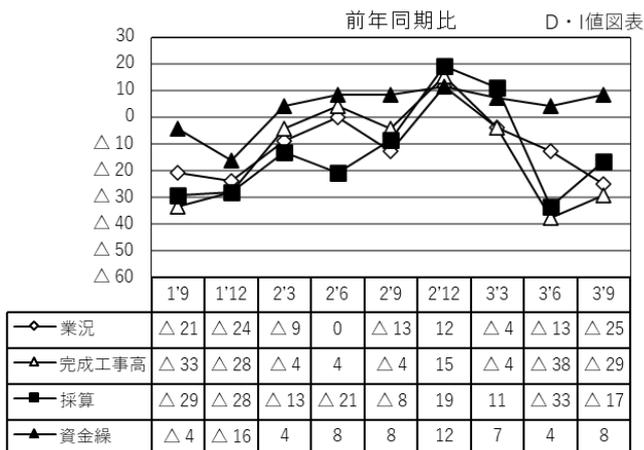
前年比で「増加企業」16.7%、「減少企業」45.8%、D・I値△29.1と、前年同期(△4.2)に比べ22.9ポイントの大幅な悪化となりました。

採算

前年比で「好転企業」20.8%、「悪化企業」37.5%、D・I値△16.7と、前年同期(△8.3)に比べて8.4ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△20.9(前年同期D・I値△41.7)、完成工事高D・I値△33.4(同△45.8)、資金繰りD・I値8.4(同△25.0)と前年同期と比べすべてのD・I値で改善する来期見通しとなりました。



3) 卸売業

売上高

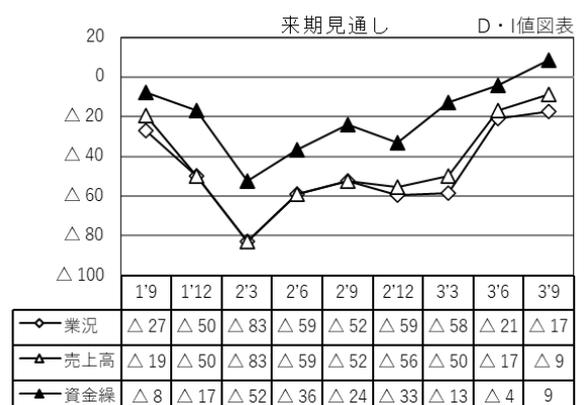
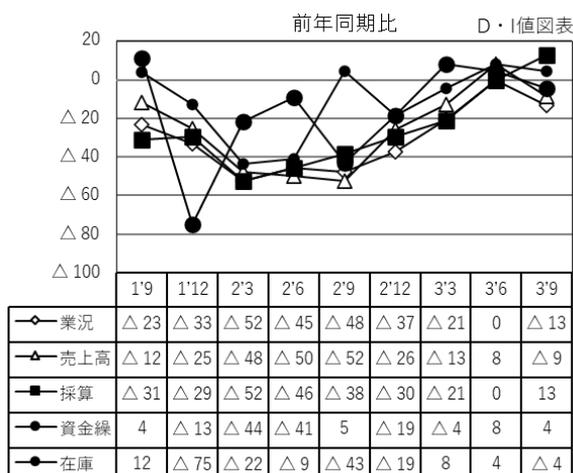
前年比で「増加企業」30.4%、「減少企業」39.1%、D・I値△8.7と前年同期(△52.4)と比べ43.7ポイントの大幅な改善傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」34.8%、「悪化企業」21.7%、D・I値13.1と前年同期(△38.1)に比べ51.2ポイントの大幅な好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△17.4(前年同期D・I値△52.4)、売上高D・I値△8.7(同△52.4)、資金繰りD・I値4.3(同△23.8)と前年同期に比べすべてのD・I値で大幅な改善を示す結果となりました。



4) 小売業

売上高

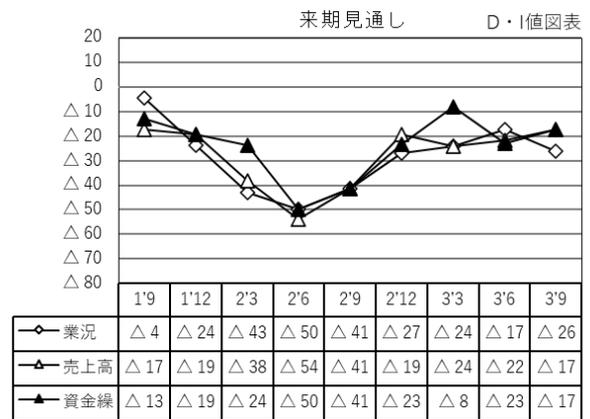
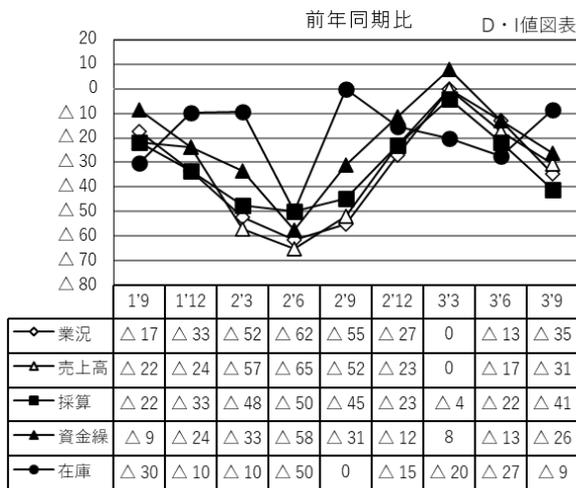
前年比で「増加企業」13.0%「減少企業」43.5%、D・I値△30.5と前年同期(△51.8)に比べ21.3ポイントの大幅な改善となりました。

採算

前年比で「好転企業」4.5%「悪化企業」45.5%、D・I値△41.0と前年同期(△44.9)から3.9ポイントの改善傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△26.1(前年同期D・I値△41.4)、売上高D・I値△17.4(同△41.4)、資金繰りD・I値△17.4(同△41.4)と前年同期と比べ全てのD・I値で大幅な改善傾向を示しました。



5) サービス業

売上高

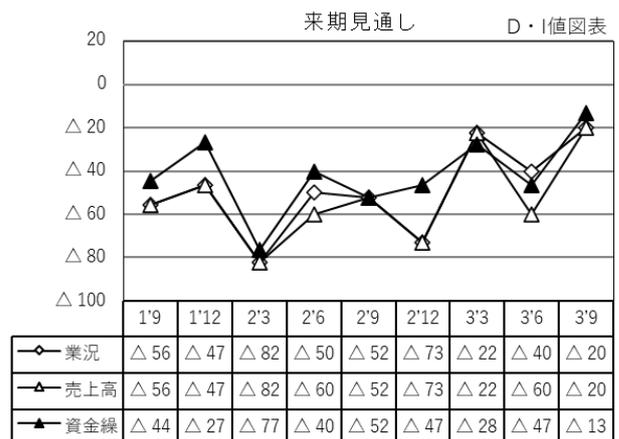
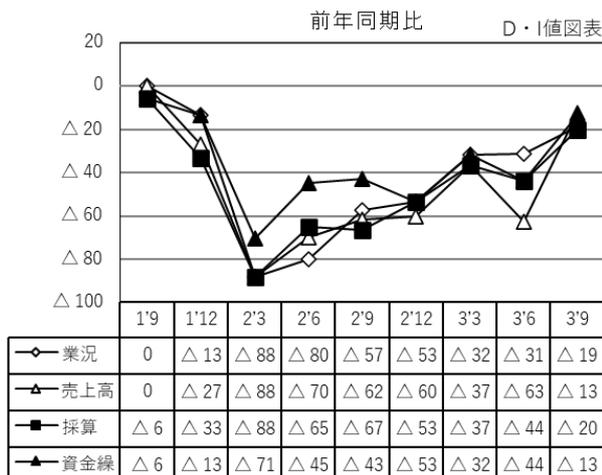
前年比で「増加企業」31.3%、「減少企業」43.8%、D・I値△12.5と、前年同期(△61.9)に比べ49.4ポイントの大幅な改善を示しました。

採算

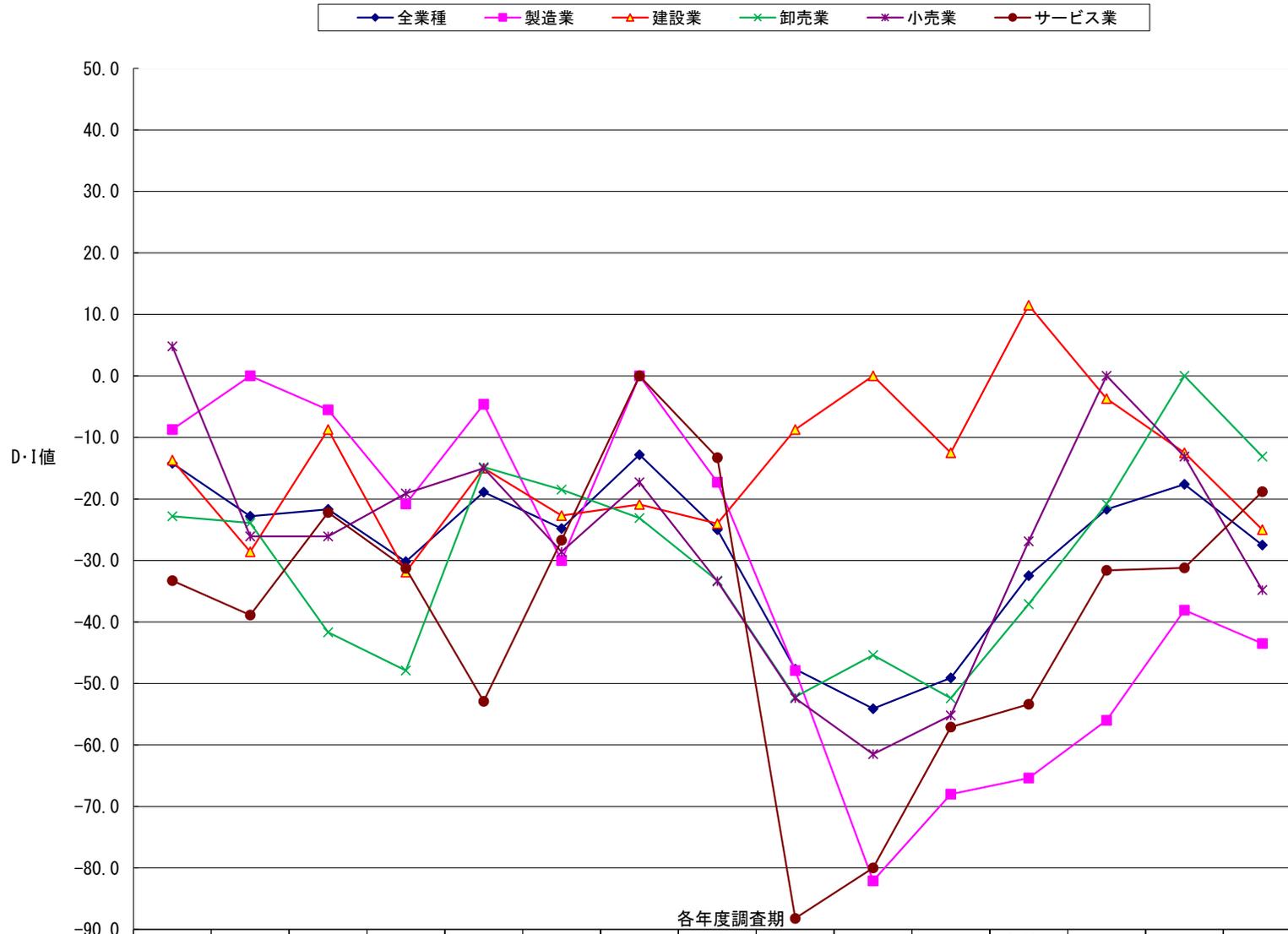
前年比で「好転企業」20.0%、「悪化企業」40.0%、D・I値△20.0と前年同期(△66.7)に比べ、46.7ポイントの大幅な改善を示しました。

来期見通し

業況D・I値△20.0(前年同期D・I値△52.4)、売上高D・I値△20.0(同△52.4)、資金繰りD・I値△13.4(同△52.3)と前年同期に比べ、全ての来期見通しは改善傾向を示しました。



各年度調査期における業況（前年同期比）のD・I値の比較



	30. 1~3	30. 4~6	30. 7~9	30. 10~12	31. 1~3	31. 4~1.6	1. 7~1. 9	1. 10~1. 12	2. 1~2. 3	2. 4~2. 6	2. 7~2. 9	2. 10~2. 12	3. 1~3. 3	3. 4~3. 6	3. 7~3. 9
	平成29年度IV	平成30年度I	平成30年度II	平成30年度III	平成30年度IV	令和元年度I	令和元年度II	令和元年度III	令和元年度IV	令和2年度I	令和2年度II	令和2年度III	令和2年度IV	令和3年度I	令和3年度II
全業種	-14.2	-22.8	-21.7	-30.2	-18.9	-24.8	-12.8	-25.0	-47.7	-54.1	-49.1	-32.5	-21.7	-17.6	-27.5
製造業	-8.7	0.0	-5.5	-20.8	-4.6	-30.0	0.0	-17.3	-47.9	-82.1	-68.0	-65.4	-56.0	-38.1	-43.5
建設業	-13.7	-28.6	-8.7	-31.9	-15.0	-22.7	-20.9	-24.0	-8.7	0.0	-12.5	11.5	-3.7	-12.5	-25.0
卸売業	-22.8	-23.9	-41.7	-47.9	-14.8	-18.5	-23.1	-33.3	-52.2	-45.4	-52.4	-37.1	-20.8	0	-13.1
小売業	4.8	-26.1	-26.1	-19.1	-15.0	-28.6	-17.3	-33.4	-52.4	-61.5	-55.2	-26.9	0	-13.1	-34.8
サービス業	-33.3	-38.9	-22.2	-31.3	-52.9	-26.7	0.0	-13.3	-88.2	-80.0	-57.1	-53.4	-31.6	-31.2	-18.8

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	人 材 不 足	得 意 先 減 少	人 件 費 増	同業者間の競合
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少
卸 売 業	人 材 不 足	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	人 材 不 足	同業者間の競合	諸 経 費 増	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	同業者間の競合
合 計	人 材 不 足	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○全業種でみると、前回調査で3位だった「得意先減少」が2位となり、前回2位だった「諸経費増」が3位となり順位が入れ代わりしました。その他の順位に変動はありませんでした。

また、業種別でみると、製造業、サービス業で「諸経費増」がトップとなっており、建設業、卸売業で「人材不足」がトップでした。コロナ禍の状況で、採用や事業承継といった課題が後回しとなっており、各業種で深刻な状況となっています。

※その他及び具体的な業界の問題点と新型コロナウイルスによる影響についての記載事項

(製造) ○鉄の生産量が落ちたため、材料の高騰により手に入らない。スクラップの海外輸出をやめるべき。

(卸売) ○商品不足、商品の値上り

○ベトナムのロックダウンによる納期遅延

○取引先である飲食店の売上、時短要請に伴う取扱いの減少

○仕入れ先が新型コロナウイルスのクラスターが発生し商品が入荷しにくくなっている。

○イベントが始まらないと売上が上がらない。

○仕入価格の高騰により、販売価格に転嫁できるかが今後の問題

○個人消費の冷え込み

(小売) ○商品の生産遅れ

(サービス) ○仕入れ価格の高騰（特に食品）。

○新型コロナウイルスの状況に応じるのは個人では限界がある。関係機関に期待。

業況

- 製造業 ⇒ 好転（一般製材、一般機械）
悪化（印刷、木製品、菓子、生麺、ビール製造、石材加工、建設用金属製品
石灰製品）
- 建設業 ⇒ 好転（一般住宅建築、板金）
悪化（土木、管、塗装、舗装、とび土工、給排水、衛生、冷暖房）
- 卸売業 ⇒ 好転（製菓原材料機器、一般製材、塗装、作業服・事務服、牛・豚等内臓肉販売）
悪化（青果委託販売、鉄鋼、米穀、化粧品、鋼材、医療機器、一般菓子、石油製品）
- 小売業 ⇒ 好転（菓子、家具）
悪化（食肉、酒類、衣料品、靴、ゴルフ用品、火薬・銃砲、コンビニエンスストア、
米穀、食料品・雑貨等、床屋）
- サービス業 ⇒ 好転（建物清掃、自動車賃貸）
悪化（クリーニング、理容、IT）

（※太字アンダーライン表示は重複該当業種）